



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

13回目の謹賀新年

先日、友人が調べてくれてこのコラムが13年続いとることを知った。(今年で14年目?!その頃産まれた子は今中学生ってこと?時の流れが早すぎる!!!) このコーナーを一番楽しみにしてくれとった祖母はもうおらんけど、帰省すると必ずと言っていいほど誰かに『毎月読みよるよ』と声をかけてもらえて、その度あったかい気持ちになる。

私にとって2024年は町内で開催されたトライアスロンやマラニックで鍼の体験会をさせてもらって、音楽以外で町と関わることができた、開拓と挑戦の一年やった。そんな時にも初めて会う方々に『読んでます』と言ってもらえて、名刺代わりになるとるようでうれしかった。いつやったか【10年やって一人前】と言われたことがある。まだ一人前になれてない気もするけど、自分のできる限りでコラムと音楽と鍼を続け、ふるさととつながるとききたいな、と思う。

そして、今年も東京から愛南町へ思いを馳せながら、みなさんの心と体の健康と、町の発展を心から祈っています。ということで、町のみなさ——ん!今年もよろしくお願ひしますね——!!

(テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

“1月の新着図書ピックアップ”の紹介

【ティーンズ】

『杉森くんを殺すには』
長谷川 まりる(作)
おさつ(絵)
くもん出版(発行)

ヒロは一大決心をして兄のミトさんに電話をかけた。「杉森くんを殺すことにしたの」。ミトさんは「やり残したことをやっておくこと、殺す理由をきちんと言葉にしておくこと」と助言する。ミトさんの助言に納得したヒロは、そのアドバイスを実践していく。衝撃的なタイトルの示す真相とは何か。



【雑誌】別冊太陽

『葛屋重三郎 - 時代を変えた江戸の本屋』
鈴木 俊幸(監修)
平凡社(発行)

今年のNHK大河ドラマの主人公葛屋重三郎の生涯をその時代背景とともに、豊富な写真、詳細な資料でたどります。吉原大門口の書店から始まり、喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎、曲亭馬琴など個性豊かな才能を見出し、一流版元の並ぶ日本橋通油町に進出した葛重。その才覚とは。



御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町
ホーム
ページ